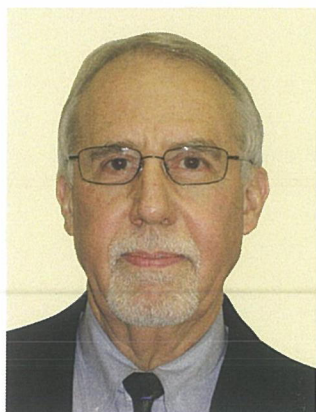


Religious Studies Approaches to the Study of Shin Buddhism: Contemporary Issues in the Study of Religion

宗教学的アプローチによる真宗研究 —宗教研究における現代的諸問題—

ジェームズ・C・ドビンズ (オーバーリン大学教授・大谷大学客員教授)

■ セミナー開講



ジェームズ・C・ドビンズ教授
(James C. Dobbins)

日程: 5月24日(火) 講義・ディスカッション

5月31日(火) 講義・ディスカッション

6月 7日(火) 講義・ディスカッション

6月14日(火) 講義・ディスカッション

6月21日(火) 講義・ディスカッション

6月28日(火) 講義・ディスカッション

7月 5日(火) 講義・ディスカッション

7月12日(火) ディスカッション(まとめ)

時間: 講義

9時00分～10時30分

ディスカッション

10時40分～12時10分

* 7月12日(火)は、ディスカッション
(10時40分～12時10分)のみ実施します。

会場: 大谷大学 演習室4 (響流館3階)

■ 公開講演会

日時: 7月19日(火) 16時20分～17時50分

題目: D. T. Suzuki and Pure Land Buddhism
鈴木大拙と浄土教

会場: 大谷大学メディアホール (響流館3階)

■ 参加資格

①大学院生 (K-GURS の単位互換で単位取得希望の方は、出来る限り全期間受講可能であること)

②上記テーマの研究に従事もしくは関心のある研究者

※講義のみ、ディスカッションのみ、公開講演会のみも参加可能です。

■ その他

①参加費用は無料です。

②講義は英語で行われますが、その内容については、和訳のプリントを参照できます。ディスカッションには日本語と英語の両方で参加が可能です。

③受講ご希望の方は、氏名、所属 (大学名等)、連絡先 (住所、電話番号等) を明記の上、ハガキ、FAX または E メールにて 5 月 17 日 (火) までに下記にお申し込みください。

■ Dobbins 先生の経歴

エール大学宗教学部大学院において日本宗教史を専攻し、1984年に宗教学博士の学位を取得。学位論文の題目は“The Emergence of Orthodoxy: A Historical Study of Heresy in the Early Jōdo Shinshū”「正統の出現: 初期浄土真宗における異義に関する歴史的研究」。この学位論文をもとに1989年に Jōdo Shinshū: Shin Buddhism in Medieval Japan『浄土真宗: 中世日本の真宗』を出版。英語圏における真宗研究の名著として高い評価を受け、2002年にはハワイ大学出版から再版されている。2004年には同じくハワイ大学出版から *Letters of the Nun Eshinni: Images of Pure Land Buddhism in Medieval Japan*『恵信尼消息: 中世日本浄土教の諸相』を出版し、これも学界で高い評価を得ている。

1984年からオハイオ州のオーバーリン大学の宗教学部において日本仏教・東アジア学の講座を担当し、現在はフェアチャイルド基金による宗教・東アジア学教授。この間、国際真宗学会の常任理事をはじめ、アメリカ宗教学会、アジア学会などにおいても要職を務めている。

専門領域は、真宗史・日本浄土教史・日本仏教美術史・東アジア宗教史。

上記の著書他に、“Portraits of Shinran in Medieval Pure Land Buddhism” in *Living Images: Japanese Buddhist Icons in Context* (Stanford University Press, 2001), “Envisioning Kamakura Buddhism” in *Re-Visioning Kamakura Buddhism* (University of Hawai'i Press, 1998) などの学術論文多数。

■ 申し込み・問い合わせ先 大谷大学 学生支援部教務課

〒603-8143 京都市北区小山上総町 TEL 075-411-8117 FAX 075-411-8150 E-mail: kyoumu@sec.otani.ac.jp

Religious Studies Approaches to the Study of Shin Buddhism: Contemporary Issues in the Study of Religion

宗教学的アプローチによる真宗研究

—宗教研究における現代的諸問題—

第1回 5月24日(火)「ポストモダンのアプローチによる宗教研究」

第2回 5月31日(火)「宗教研究における女性」

第3回 6月 7日(火)「仏教研究における女性」

第4回 6月14日(火)「真宗研究における女性」

第5回 6月21日(火)「宗教研究におけるオリエンタリズム」

第6回 6月28日(火)「鈴木大拙批判の検討」

第7回 7月 5日(火)「鈴木大拙と近代仏教の構築」

第8回 7月12日(火)「まとめのディスカッション」

第9回 7月19日(火) 公開講演会・レセプション

今年度のセミナーでは、20世紀後半から21世紀初めの宗教学の潮流を概観し、この時期に盛んになったポストモダン、ポスト構造主義、ポストコロニアルの立場からの宗教批判に様々な影響を受けた宗教思想家に焦点をあてて学びます。そうした批判の出発点には、宗教や宗教学が一定の視点を特権化し、他の見方を周縁化するような前提の上に成り立ってきたということがあります。その前提の多くは暗黙の前提であり、しかも正統で主流をなす思考の基礎となっています。それゆえ、ポストモダンの思想家たちは、そうした前提を明確に示し、問いただし、脱構築する必要があると考えるのです。その結果、この新たな学問の潮流においては、宗教や伝統的な宗教学を「疑いの解釈学」によって分析する傾向があります。このような方法は過度に批判的であるように見えるかもしれませんが、正統の中に含まれる仮定や既成の概念を脱構築することを通して、様々な新しい思考の余地が生まれてきたのです。特に、これまで思想の世界において周縁に位置づけられてきた人々、抑圧されてきた見解にとっては、その正当性を訴えることのできる場ができたのです。この流れの中から生まれてきた二つの学問の系統として、フェミニスト・アプローチによる宗教研究と、ポストコロニアルの立場からの宗教分析が挙げられます。今回のセミナーでは、この二つの流れを中心に取り上げます。新しいアプローチによる「宗教と女性」についての研究という観点から、「仏教と女性」特に「真宗と女性」について検討します。また、近代の植民地的状況に配慮したポストコロニアルの批判的観点から、近代仏教について探求します。後者の例として、近代仏教の構築に果たした鈴木大拙の役割について、近年の批判的研究を詳しく吟味する予定です。